

講演Ⅰ 「学校の感染症対策について」

講師 白鷗大学教育学部 教授 岡田晴恵先生

『学校保健安全法を遵守し、保護者に理解と協力をいただきながらクラスと子どもと職員を守る』
日本は先進国にもかかわらず、感染についての学びが少ないことを指摘された後で、次のような項目についてすぐに使える資料を提示しながらお話いただきました。



○学校保健安全法施行例における「感染症予防」について（出席停止の指示） 学校医・・・指導、アドバイス
校長・・・決定する

○アタマジラミ
首都圏で流行している。不潔だからつく訳ではない。
発見したときは、冷静に対処する。差別を生みやすいアタマジラミ感染症は要注意である。「何気なく」「さりげなく」「それとなく」対応する。発生時は、子どもたちの頭を観察し、部屋の掃除も忘れずに行う。

○インフルエンザ
湿度、換気が大切。そして、飛沫感染を増やさない。15歳未満の子は解熱剤に注意する。大人用の薬を半分飲ませるような素人判断での服用は危険である。発熱時は、首の周りやわきの下、足のつけ根などに保冷剤をあてると効果的である。

○カンピロバクター感染症

カンピロバクターを原因とする食中毒は多く、学校の調理実習でも起きている。食材を十分加熱することや鶏肉を扱った後の手洗い、調理器具の洗浄を徹底することが大切である。

○ノロウイルス感染症（感染性胃腸炎）

吐瀉物をしっかり処理しないと感染源になる。カーペットに残っていたノロウイルスが掃除機の排気で拡散して感染源になった例もある。

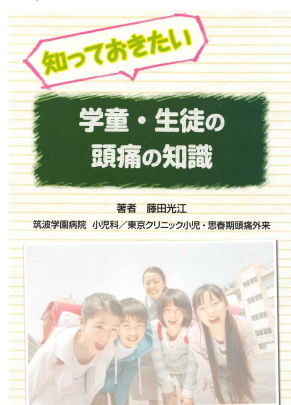
○マダニ対策

マダニにかまれてしまったら、無理して引き抜くと口器が残り化膿することもあるので、専門医に診てもらおう。白色ワセリンをマダニを覆うように塗り込み、しばらくすると簡単に取れる。

講演Ⅱ 「今知っておきたい小児・思春期の頭痛

～片頭痛と心がからむ慢性連日性頭痛～

講師 筑波学園病院小児科/東京クリニック 小児・思春期頭痛外来 藤田光江先生



小児においても片頭痛は多い疾患であるが、わが国においては正しく診断されていないことが多い。片頭痛が家庭や学校において正しく理解されることは、子どもを取り巻く環境の調整や正しい治療のために必要なことである。

○まずは予防医学 日頃から心身とも健康を保つ心構えが大切！

- 1 早寝早起き
- 2 からだを動かす
- 3 食育
- 4 生活の環境

その他、心の問題がからだの症状になる場合、頭痛が最も多い症状である。思春期に頭痛が慢性化することが多い。

○小児・思春期の偏頭痛の治療

患者と保護者へ頭痛についての説明と対処法などの教育をする。頭痛ダイアリーへの記載を勧め、経過を追うようにする。

- 1 正しい診断
- 2 非薬物療法をまずは推奨
 - 1) 誘発因子を避ける
まぶしい光、疲労、睡眠不足、人込み、精神的緊張、天候、運動、チーズやチョコレートなどの食物
 - 2) 睡眠時間
 - 3) 規則正しい食事や水分摂取、適度な運動などの生活リズム
 - 4) 家庭、学校、習い事などの心理社会的ストレスの把握
- 3 薬物療法（急性治療薬と予防薬）

